



# Challenge 花ひらく未来へ

第4回 The 4th Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine  
日本フットケア・足病医学会学術集会

会期 / 2023年

12月22日(金)・23日(土)

会場 / 沖縄コンベンションセンター  
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1

会長 / 田中里佳

副会長 / 飯田修

関西労災病院  
循環器内科 部長

順天堂医院 足の疾患センターセンター長  
順天堂大学大学院医学研究科 再生医学 主任教授  
順天堂大学医学部 形成外科学講座 教授

溝上 祐子

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科  
プライマリケア看護学

【主催事務局】

順天堂医院 足の疾患センター  
〒113-8421 東京都文京区本郷2丁目1番1号  
副センター長 橋 優子  
センター員 松原 忍  
センター員 藤井 美樹

【運営事務局】

日本コンベンションサービス株式会社 内  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2  
大同生命霞が関ビル14階  
TEL : 03-3508-1214  
FAX : 03-3508-1302  
E-mail : 4jfcpm@convention.co.jp

## 下肢静脈瘤に対するグルー治療の成績と治療法の選択

○今井崇裕<sup>1</sup> 黒瀬満梨奈<sup>2</sup> 岡本光司<sup>2</sup> 谷本尚愛<sup>3</sup>

Takahiro Imai<sup>1</sup>, Marina Kurose<sup>2</sup>, Koji Okamoto<sup>2</sup>, Naochika Tanimoto<sup>3</sup>

1. 西の京病院 血管外科 Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

2. 西の京病院 看護部 Nursing Department, Nishinokyo Hospital

3. 西の京病院 臨床工学科 Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital

【はじめに】2019年に血管内塞栓術(CAC)が国内で開始された。厚生労働省 NDB オープンデータでは、CACによる伏在静脈瘤の治療割合は2020年時点で4.6%である。当院におけるCAC術後2年の治療成績と選択の変化を報告する。

【対象】2020年1月～2021年3月、85件130肢(F:63/ M:22, 68.0 ± 13.1)の一次性下肢静脈瘤でCACを施行した患者を対象とした。

【方法】治療2年の有効性と安全性を検討した。有効性は超音波で治療標的血管を評価、安全性は有害事象の発生率および治療経過とした。治療標的血管の評価は閉塞断端の距離を計測、その閉塞断端が治療開始部5cm以下の場合は閉塞、5cm以上の場合は開存と定義した。

【結果】Kaplan-Meier Methodによる累積完全閉塞率は大伏在静脈95.2%、小伏在静脈91.7%であった。有害事象は12例(14.1%)に見られた。遅発性アレルギー反応8例(9.4%)、静脈炎2例(2.3%)、EGIT1例(1.2%)、その他1例(1.2%)であった。すべての有害事象は1週間程度で軽快した。

【考察】当院ではCACを治療と患者のファクターに分けて選択している。治療ファクターでは伏在静脈径12mm以下、瘤化が軽度、複数静脈の治療を必要としない、伏在静脈が表在化していない、潰瘍がないなどである。患者ファクターは整容面、重篤なアレルギー歴、インプラントへの抵抗、早い社会復帰の希望などである。

【結語】CACの良好な治療成績を受け、治療の選択の適応は増えると思われる。